

一般社団法人 日本呼吸療法医学会
2024 年度（第 47 期）第 4 回理事会 議事録

日 時：2025 年 5 月 30 日（金）18:00～19:30

形 式：Web 会議形式

出席者：竹内宗之（理事長）、内田寛治、大塚将秀、小倉崇以、倉橋清泰、
吉田健史、平井豊博（理事）
石井宣大、佐藤暢一、玉木 彰、松本幸枝（各理事）、竹田晋浩（監事）

欠席者：清水敬樹、志馬伸朗、中根正樹（理事）、藤野裕士（監事）

（敬称略）

- ・理事会開催に必要な理事の過半数の出席が報告され開会が宣言された。

I. 報告事項

1. 前回理事会議事録の確認・承認（竹内理事長）

- ・前回理事会議事録は、原案どおり承認された。

2. 持ち回り理事会（審議 1 件、連絡 1 件）の確認・承認（竹内理事長）

1) 名誉会員ご逝去の件

- ・名誉会員の多治見公高先生が 5 月 22 日（木）、肺炎のためご逝去されたとの一報を受け、理事会・委員会規則第 21 条に則り供花代を拠出し学会からの弔意をお伝えした。川前金幸名誉会員には 5 月 27 日のお別れ会にご参列いただいた。
- ・一般的に、現役教授はもちろん、名誉会員になられた方はそれなりの葬儀が行われることが多いが、退官後かなりの年数が経っているなどご遺志で家族葬を選ばれる場合も想定される。学会からの見舞金について、さまざまなケースに対応すべく詳細の内規を作成することとした。

3. 理事長報告（竹内理事長）

1) 呼吸療法専門医の認定方針

- ・前回の理事会で、呼吸療法専門医の位置づけや合格水準について、理事会の方針・基準を整理して委員会に提示する必要があるとの議論になった。
- ・本会の専門医制度は 2010 年に発足し、現在は専門医の認知度を高めるために意図的にその数を増やし、同時に専門医を養成するための研修施設を全国に整備している段階にある。
- ・本会の専門医制度は、特別なインセンティブや取得義務のない任意の制度である。診療報酬の加算算定要件などとの関連もなく、直接的なメリットが明らかでない中、本制度の趣旨に賛同する医師会員が自ら審査料・登録料まで納めて専門医を取得し、当該領域の発展に貢献している。この点を考慮すると、現時点では引き続き門戸を広く開ける方針でよいと考える。

- ・また、本会は呼吸療法という比較的限定された領域に関心を持つ医療従事者の集まりであり、上記のように志の高い医師が受験していることを鑑みると、試験の合格率は高くなって然るべきである。引き続き、試験問題の適切性や難易度は吟味されるべきであるが、合格率が高いことだけをもって不適切とは言えない。ただし将来的に本会の専門医が診療報酬加算算定の要件や何らかの公的な資格に関与するような事態になった場合には再考する必要がある。

2) 第 35 回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会共同企画開催の件

- ・第 35 回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会会長より届いた共同企画開催の依頼について承諾した。

4. 事務局からの報告（佐藤理事）

- ・2025 年 5 月時点の会員数が以下のとおり報告された。
一般会員：1,787 名（Dr 1,120、Ns 239、CE 298、PT 107、他 23）
賛助会員：13 社／年間購読契約：7 件
- ・会員動向は、2024 年度末で資格喪失退会者が 88 名となり、全職種で減少となった。医師・看護師・臨床工学技士はいずれも 20 名ほど減少している。
- ・玉木理事より、関連学会で理学療法士の入会が増えている事例の報告があった。本会は急性期寄りの傾向があるため慢性期医療を主とする多職種を取り込めていない可能性がある。
- ・本会は学術集会の人气が高く、非会員の参加者が多い。教育・臨床情報を 1 年中閲覧できるコンテンツがあれば会員獲得の契機になる。現在広報委員会では、そうした各種教育コンテンツの拡充による会員増を目指す案が進んでいる。著作権の取り扱いに留意のうえ、積極的に取り組んでいく。
- ・年会費の払い込み方法を、現在の郵便振替からクレジットカード払いなどにも対応していくことで会員の利便性も向上する。会員管理システム導入時にそうした複数の支払方法も導入する。
- ・一般会員の会費納入状況は、2023 年度が 94.6%、2024 年度が 82.3%である。2025 年度の年会費請求は 4 月末に発送した。

5. 学術集会報告、準備状況

1) 第 47 回学術集会（会長：吉田理事）

2025 年 8 月 30 日(土)・31 日(日)グランキューブ大阪（大阪）

「挑戦、そしてその先へ—Beyond the CHALLENGE—」

オンデマンド配信(予定)：2025 年 9 月 18 日(木)12:00～10 月 21 日(火)24:00

- ・学術集会収支予算について、1,300 名の参加者予定で 8,579,500 円の黒字予算となったことが報告された。

- ・今後、プログラムを確定し、特別プログラム登壇者・一般演題座長への日時通知、一般演題応募者採否・日時通知、暫定プログラム公開を進める。6月17日(火)12:00に参加申込・ハンズオンセミナー申込を開始予定である。
 - ・会期後には上記のとおり約1カ月間オンデマンド配信を予定している。
- 2) 第48回学術集会 (会長：平井理事)
- 2026年7月4日(土)・5日(日)国立京都国際会館 (京都)
- ・第47回学術集会時に会場で配布・掲示するポスター、リーフレットを準備中であることが報告された。協賛獲得も8月の会場で積極的に行う予定である。
- 3) 第49回学術集会 (会長：竹内理事長)
- 2027年7月3日(土)・4日(日)ウインクあいち (愛知)
- ・上記の進捗が報告された。

6. 事業報告

- 1) セミナー事業 (大塚理事)
- ・第54回日本呼吸療法医学会セミナー (7月1日～31日) の受講者数は1,000名を超える見込み。受講料は7,700円 (税込)。
- 2) 呼吸療法専門医研修施設 2025年度〈更新・新規〉申請 (佐藤理事)
- ・現時点で更新25施設 (対象41)、新規6施設からの申請を受理している。

7. その他、今後の理事会予定 (竹内理事長)

- 1) 2024年度日程
- ・定時社員総会 (Web会議形式) 6月14日(土) 17:00～19:00
- 2) 2025年度日程 (予定)
- ・第1回理事会 (Web会議形式) 9月12日(金) 18:00～19:30
 - ・第2回理事会 (Web会議形式) 11月28日(金) 18:00～19:30
 - ・第3回理事会 (Web会議形式) 2月27日(金) 18:00～19:30
 - ・第4回理事会 (Web会議形式) 5月29日(金) 18:00～19:30
 - ・定時社員総会 (Web会議形式) 6月13日(土) 午後
 - ・2025年度の理事会・定時社員総会の予定が上記のとおり確定した。

II. 委員会報告

■常設委員会

1. 将来計画・財務委員会 (委員長 竹内宗之)

1) 委員会開催

日 時：2024年6月27日(木)13:00～14:00 会 場：緑の迎賓館 アンジェリーナ
出席者：藤野裕士 (委員長)、大塚将秀、佐藤暢一、布宮 伸 (各委員)

欠席者：志馬伸朗（委員）

2) 活動実績

- ・若手登用を推進し、2024 年度代議員に新規 38 名が就任
- ・広報委員会の設置、ホームページのリニューアルに着手

3) 今後の活動

- ・学術集会あり方検討委員会業務の担当
- ・会員管理システムの制作（ホームページ制作会社との協業も視野に）

2. 編集委員会（委員長 藤本潤一／担当理事 竹内宗之）

1) 委員会開催

《第 1 回》

日 時：2024 年 9 月 24 日(火)18:00～19:50 形 式：Web 会議形式

出席者：藤本潤一（委員長）、片岡 惇、飯田有輝、馬屋原康高、緒方嘉隆、
柏 庸三、田村富美子、近田優介、則末泰博（委員）、竹内宗之（理事）

欠席者：吉田健史（委員）

《第 2 回》

日 時：2025 年 3 月 4 日(火)13:00～15:00 形 式：Web 会議形式

出席者：藤本潤一（委員長）、片岡 惇、吉田健史、馬屋原康高、緒方嘉隆、
田村富美子、近田優介、則末泰博（委員）、竹内宗之（理事）

欠席者：飯田有輝、柏 庸三（委員）

2) 機関誌

《第 41 巻第 2 号：2024 年 11 月 30 日発行》

特集「**気管切開**」（担当：藤本委員長）

総説 **急性低酸素性呼吸不全に対する非侵襲的呼吸補助** 櫻谷 正明

解説 **非侵襲的呼吸補助療法におけるネブライザー** 奥田みゆき

講座 **間接性肺炎の急性増悪の診断と治療** 片岡 健介

《第 42 巻第 1 号：2025 年 5 月 30 日発行》

第 46 回学術集会『標す』特別企画 中根 正樹

特集 「**患者と人工呼吸器間の非同調**」（担当：則末委員）

総説 **Closed loop control** 荒田 晋二

解説 **呼吸サルコペニア** 宮崎慎二郎

慢性呼吸不全の在宅療養：臨床工学技士の立場から 阿部 博樹

《第 42 巻第 2 号：2025 年 11 月 30 日発行》

特集 「**小児の呼吸管理のエッセンス**」（担当：飯田委員）

総説 航空搬送

山口 大介

解説 薬剤性肺障害（ICI など新規薬剤を中心に）

馬場 智尚

講座 カプノグラム

岩元 悠輔

3) 投稿論文

- ・直近 6 年間の新規投稿数（採択数※）の推移

'20 年	'21 年	'22 年	'23 年	'24 年	'25 年
23 (12)	21 (9)	16 (7)	20 (12)	19 (6)	6 (0)

※採択日が翌年にずれ込んだ件数も含む

- ・第 46 回学術集会座長推薦：56 演題（優秀演題含む） 3 編投稿

4) ユーザーレポート

38-1	38-2	39-1	39-2	40-1	40-2	41-1	42-1
3 社	5 社	2 社	2 社	2 社	2 社	2 社	1 社

※電子ジャーナルへの移行にともない広告掲載を終了

5) 2025 年度論文賞

- ・優秀論文賞 1 編、奨励論文賞 2 編を以下のとおり選出し理事会で承認された。第 47 回学術集会で表彰を行う予定である。

- ・優秀論文賞

原著 食道内圧バルーン空気量の簡便な較正法（呼吸同調持続注入法：CAISR 法）
の開発

宇佐見 直・他（東京ベイ浦安市川医療センター 臨床工学室）

臨床工学技士 41-2 号

- ・奨励論文賞

呼吸管理の工夫 単回使用吸入麻酔薬気化器を使用した術後短期人工呼吸管理に関する費用分析

下村 太郎・他（大阪赤十字病院 医療技術部 臨床工学技術課）

臨床工学技士 41-1 号

呼吸管理の工夫 令和 6 年能登半島地震における在宅酸素療法・在宅人工呼吸療法・在宅持続陽圧呼吸療法を扱う事業者の災害対応

濱坂 秀一（医王病院 呼吸器障害・感染症治療研究室）

臨床工学技士 41-2 号

6) 用語集改訂第 3 版

- ・制作業務を用語集改訂委員会（Ad hoc）に委託した。

3. 代議員審査委員会（委員長 青景聡之／担当理事 平井豊博）

1) 代議員審査 2026 に向けて

- ・審査の実施に向けて、規定の確認、運用の見直し、申請方法の確認などを行い 2026

年 1～3 月の申請に備えることとする。

4. 小児在宅人工呼吸検討委員会 （委員長 寺澤大祐／担当理事 竹内宗之）

1) 第 3 版の制作に向けて

- ・在宅人工呼吸器の普及が急速に拡大し、小児在宅の分野は重要な領域になりつつある。第 3 版の制作に向け、現委員がコアとなり制作陣を組織できるよう準備する。

2) 委員会体制の変更

- ・本委員会は『小児在宅人工呼吸療法マニュアル』の制作・改訂が主たる活動となっており、制作メンバーの活動を改訂時期に集約させるため、常設委員会から Ad hoc 委員会へと移行する。

5. セミナー委員会 （委員長 方山真朱／担当理事 大塚将秀・玉木 彰）

1) 委員会開催

《第 1 回》

日 時：2024 年 8 月 5 日(月)18:00～18:40 形 式：Web 会議

出席者：方山委員長、秋保委員、板垣委員、大村委員、小野寺委員、小泉委員、
小山委員、藤江委員、山口委員、大塚理事、玉木理事

オブザーバー：鶴澤委員、鎌田委員、小笠原（事務局）

《第 2 回》

日 時：2025 年 4 月 22 日(火)10:00～11:00 形 式：Web 会議

出席者：方山委員長、板垣委員、大村委員、小野寺委員、小泉委員、小山委員、
柳田委員、大塚理事、玉木理事

オブザーバー：後藤次期委員、小笠原（事務局）

欠席者：櫻谷委員、藤江委員、山口委員

2) 活動報告（2024 年度）

- ・第 53 回医学会セミナー：7/1～7/31（メディカルスタッフ向け 9 講義）
プランナー：方山真朱 委員長 受講料：7,700 円（税込、テキスト代含む）
点 数：3 学会合同呼吸療法認定士の更新・受験申請点数（25 点）付与
- ・医師向けセミナー第 3 回 Refresher コース：11/1～11/30（医師中級者向け 7 講義）
プランナー 小泉 沢 委員 受講料：12,100 円（税込、テキスト代含む）
教 材：『呼吸療法専門医テキスト』（専門医制度との連動）
- ・医師向けセミナー第 14 回 Basic コース：3/1～3/31（医師初級者向け 7 講義）
受講料：12,100 円（税込、テキスト代含む）

《2024 年度セミナー収支》（税別）

- ・3 つのオンラインセミナーを実施し、以下の収支を計上した。

	受講料収入	講演料	委託料/テキスト	事務局費	収 支
第 53 回セミナー(799 名)	5,593,000	546,729	1,700,628	150,000	+3,195,643
第 3 回 Refresher(107 名)	1,177,000	425,233	616,734	100,000	+35,033
第 14 回 Basic(293 名)	3,223,000	425,233	832,373 宣伝)150,400	100,000	+1,714,994

- ・ハンズオンセミナーin 鹿児島 ハンズオンセミナー「人工呼吸器」を開催した。

日 時：2025 年 1 月 11 日(土)9:00～12:00

会 場：鹿児島大学病院 臨床研修センター

講 師：新旧セミナー委員 8 名（4 ブース設置）

内 容：① 人工呼吸器のグラフィック（大村、櫻谷）

② 肺保護換気とは？（小野寺、鎌田）

③ この自発呼吸は大丈夫？（板垣、小山）

④ 最適な PEEP 設定（方山、藤江）

受講生：1 ブースあたり最大 8 人。総数最大 32 名。多職種の参加。

謝 礼：50,000 円/1 名、旅費交通費 約 50,000 円/1 名（主催団体負担）

3) 活動計画（2025 年度）

- ・第 54 回医学会セミナー：7/1～7/31（メディカルスタッフ向け 9 講義）

プランナー：大村和也 委員 受講料：7,700 円（税込、テキスト代含む）

点 数：3 学会合同呼吸療法認定士の更新・受験申請点数（25 点）付与

- ・医師向けセミナー第 4 回 Refresher コース：11/1～11/30（医師中級者向け 6 講義）

プランナー 小山有紀子 委員 受講料：12,100 円（税込、テキスト代含む）

教 材：『呼吸療法専門医テキスト』（専門医制度との連動）

- ・医師向けセミナー第 15 回 Basic コース：3/1～3/31（医師初級者向け 7 講義）

受講料：12,100 円（税込、テキスト代含む）

4) ハンズオンセミナーの地方開催補助について

- ・セミナー事業で生じる黒字分の活用案として、地方でハンズオンセミナーを開催する際の補助金とする委員会提案が理事会で承認された。
- ・財源はオンラインセミナーの受講料である一方、受益者はハンズオンセミナーの受講者になり、両者が異なるという点と受益者が非常に少数（多くて 30 名前後）という点が懸念され、公平性の担保が課題の 1 つといえる。
- ・本会全体の事業という大きな括りで考えると、学会の積極的な社会参画による社会的地位向上といったメリットがあり、2026 年度から年間予算 100 万円程度を計上し計画を進める。
- ・また、鹿児島でのハンズオンセミナーのように、依頼を受けて実施するケースについても基本的にはお受けする方向で検討を行うが、学会への依頼をしていただくこと、適正な講演料・資料作成料を頂戴すること、器材・消耗品を手配いただくこと、できるだけ近隣の講師で対応できる配慮をいただくことなどを条件に承認された。

6. チーム医療推進委員会（委員長 佐藤暢夫／担当理事 大塚将秀）

1) 委員会開催（定例 Web 会議、毎月第 3 金曜日 18 時）

委 員：佐藤暢夫、有澤文孝、五十嵐義浩、玉城 智、戸部一隆、中澤英俊、
野々山忠芳、花岡正志、藤澤美智子、三山麻弓、山下崇史、大塚将秀（理事）

開 催：2024 年 7 月、9 月、11 月、12 月、2025 年 1 月、2 月、3 月、4 月、5 月の計
9 回の定例委員会を開催した。

2) Joyful Board（会員限定意見交換掲示板）

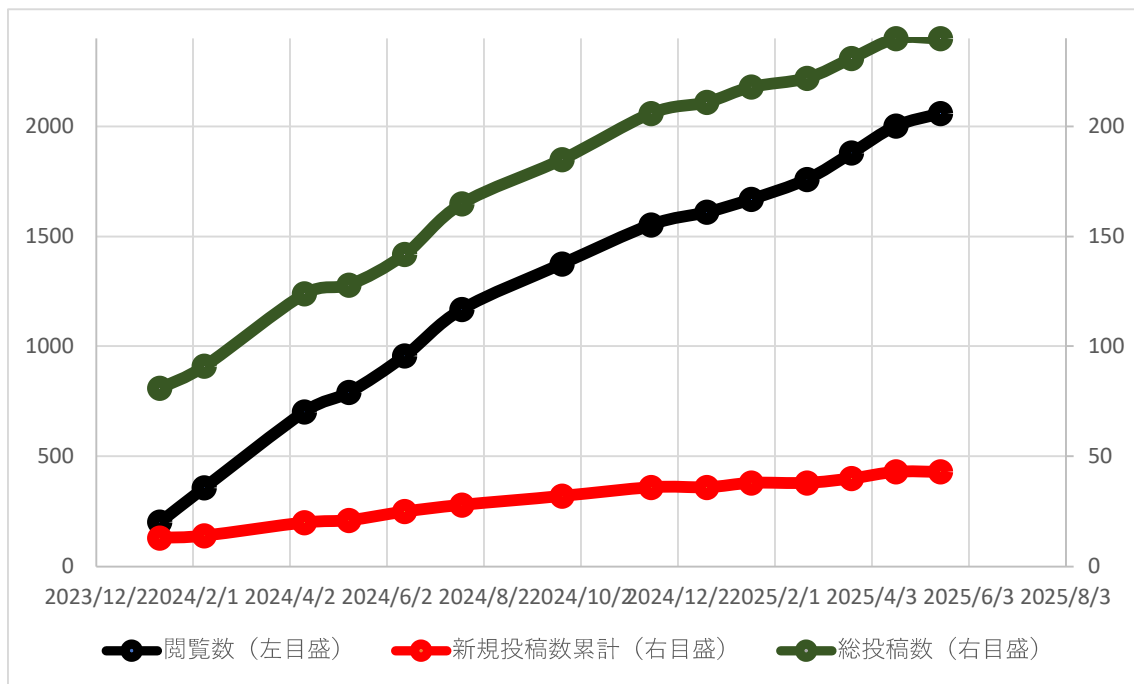
- ・アクセスカウンター設置 「2,200」
- ・投稿数・回答数の推移を以下グラフに示した。

3) 実態調査アンケートの投稿執筆中

「呼吸管理及び自発呼吸トライアルにおけるメディカルスタッフの関わりについて」

4) 第 47 回学術集会（2025 年 8 月 30 日～31 日、大阪）での委員会企画

- ① Joyful Board 活用してますか？（委員会報告）30 分
- ② 呼吸療法におけるタスク・シフト/シェア（パネルディスカッション）90 分
- ③ 呼吸療法における多職種連携の現状と課題（パネルディスカッション）90 分
- ④ 呼吸療法のいろは（教育講演として採用）30 分



6-2. RST プロジェクト（委員長 長谷川隆一／担当理事 佐藤暢一）

1) 会議

日 時：2025 年 3 月 31 日(月)17:30～18:30 形 式：Web 会議方式

出 席：長谷川隆一、三山麻弓（呼吸療法）、西村直樹、南雲秀子、宮川哲夫（ケアリハ）

欠 席：金子教宏、濱本実也、蝶名林直彦

2) RST プロジェクトの終了

- ・RST プロジェクトは日本呼吸療法医学会と日本呼吸ケア・リハビリテーション学会の2学会合同で2012年に始動した。本プロジェクトの目的は、会員およびその所属施設におけるRSTの普及と啓発・支援を行い、さらには各施設のRSTの活動成果をデータベースに蓄積し、学会としてその有用性・価値を社会に示すことにあった。各施設からの申請を受けて施設認定・登録を行い、定期的な活動データの吸い上げ・検証を行ってきた。
- ・当初、本プロジェクトによりRSTが増加し、その恩恵を受ける患者も増え、真摯に取り組むRSTには診療報酬の加点が得られる、といったプラスの効果を期待したが実際には認定・登録施設は43施設にとどまり、活動データの入力作業が現場の負担となっている声もあり、プロジェクトの方針を大幅に見直す必要があった。
- ・一方、RSTの認知度は徐々に高まり、多くの施設でRSTの取り組みが軌道に乗り、近年では学会発表や文献から呼吸ケアの質の向上や安全の担保にRSTが貢献していることが明らかとなった。本プロジェクトの当初の目的であった普及と啓発については一定の成果があったものと考え、2024年度をもって活動を一旦終了する。
- ・ただし、引き続きRSTへの支援は必要であり、今後は各学会単位でRSTの活動を支える体制を整えることとした。これまで本プロジェクトにご協力いただいた登録施設の皆様、注目して応援くださった会員の皆様に深く御礼申し上げます。

7. 安全対策・危機管理委員会（委員長 大塚将秀／担当理事 内田寛治・石井宣大）

1) 人工呼吸器の作動停止事例情報収集

《2024年4月～2025年3月》

- ・情報提供数10件：換気が停止したもの6件、換気が継続していたもの4件
- ・換気が停止した6件について
実害なし：6件、一時的低酸素血症：0件、後遺症あり：0件、死亡：0件
覚知方法 アラームによるもの：4件、換気停止を目撃したもの：2件

《総括》

- ・2013年から本委員会で行ってきた人工呼吸器停止事例収集に対して、総計145件の情報提供があった。重複登録や換気が継続していたと判断できた事例を除いた127件に関して集計し分析を行った。
- ・死亡事例が3件あったが、いずれも原疾患が重篤または終末期で、積極的な治療を希望しない症例だった。それ以外は、後遺症を残した事例はなく、一時的な低酸素血症を呈したものが18件、無症状が106件だった。
- ・原因は多岐にわたったが、特定の機種に片寄って発生する傾向は見られなかった。
- ・本事例収集は、任意の報告なので報告バイアスが大きく、PMDAおよび日本臨床工

学技士会でも同様の事例収集事業があるため報告者の負担が大きいことが懸念され、**2025 年 3 月末で終了することが前回の理事会で承認された。**

- ・収集したデータおよびその分析結果は、第 47 回学術集会（**2025 年**）及び学会誌（**2025 年 2 号**）で報告を行う予定である。

2) 医療安全全国共同行動 **2025 年度**継続

- ・医療安全全国共同行動 **2025 年度**定時社員総会への出席・活動報告を予定。

3) 医療事故外部調査委員の選出

- ・国内医療施設からの外部有識者推薦依頼があった場合、安全対策・危機管理委員会を中心に標記調査委員を選出し、依頼に備えることとした。
- ・将来的には代議員に対象を広げて調査委員を募り、派遣依頼があった場合は、理事長、事務局担当理事、安全対策・危機管理委員会委員長で協議して対応者を決めることなどを検討している。

4) 『人工呼吸器安全使用のための指針（第 2 版 2011 年）』改訂

- ・日本臨床工学技士会（窓口：木村政義様）と日本クリティカルケア看護学会（窓口：濱本実也様）との 3 学会協業体制で改訂が進められた。
- ・完成間近であり、今後はパブリックコメント募集、理事会承認を経て **2025 年夏頃**には公表の予定である。

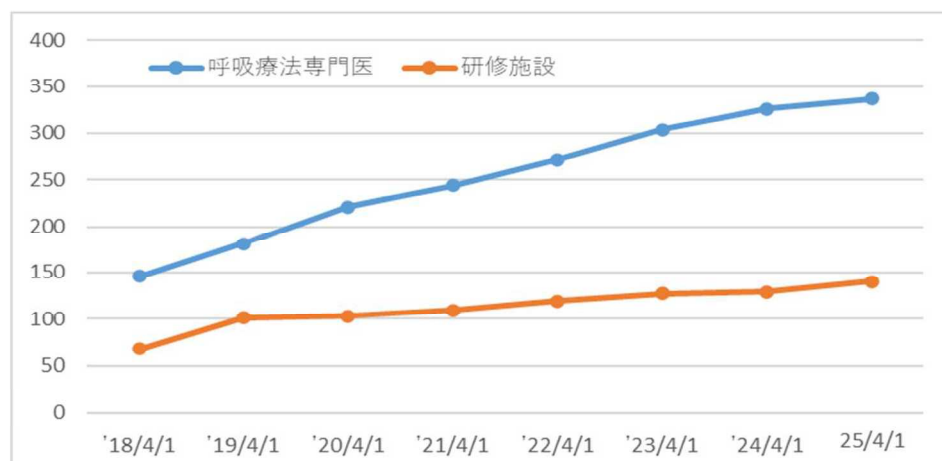
8. 専門医委員会 （委員長 江木盛時／担当理事 佐藤暢一）

1) 2024 年度〈更新・新規〉審査結果

	研 修 施 設 (129) 〈更新〉 〈新規〉		専 門 医 (325) 〈更新〉 〈新規〉	
申請期間	4/1～ 5/31		8/1～ 9/30	
対象/申請	8 施設	11 施設	91 名	36 名
認 定 数	8 施設	11 施設	68 名	36 名
			筆記試験合格	36 名
退 会 等			退会 2 名	暫定 1 名
認定総数	140 施設		337 名	
有効期間	2025/4/1～ 2030/3/31			

2) 呼吸療法専門医／研修施設 推移

	'18/4/1	'19/4/1	'20/4/1	'21/4/1	'22/4/1	'23/4/1	'24/4/1	'25/4/1
呼吸療法 専門医	146	181	221	244	272	304	326	337
研修施設	68	101	103	109	119	127	129	140



3) 委員会開催

《第1回》

日 時：2024年6月13日(木)14:00～15:00 形 式：Web 会議形式

出席者：江木盛時（委員長）、大藤 純、倉橋清泰、鈴木 学、平井豊博、
藤本潤一、山下幸一、吉田健史（各委員）、佐藤暢一、藤野裕士（担当理事）

欠席者：阿部信二、岡森 慧、富井啓介（委員）

議 事：研修施設書類審査、テキスト改訂確認

《第2回》

日 時：2024年10月9日(水)18:00～19:00 形 式：Web 会議形式

出席者：江木盛時（委員長）、岡森 慧、鈴木 学、富井啓介、平井豊博、藤本潤一、
松本正太郎、山下幸一（各委員）、佐藤暢一（担当理事）

欠席者：阿部信二、大藤 純、倉橋清泰、吉田健史（委員）

議 事：呼吸療法専門医書類審査、試験確認

《第3回》

日 時：2024年12月9日(月)16:00～17:00 形 式：Web 会議形式

出席者：江木盛時（委員長）、阿部信二、岡森 慧、倉橋清泰、富井啓介、
平井豊博、藤本潤一、松本正太郎、吉田健史（各委員）

欠席者：大藤 純、鈴木 学、山下幸一（委員）、佐藤暢一（担当理事）

議 事：試験合否判定、次年度テキスト改訂・問題作成計画

4) 呼吸療法専門医の認定更新にかかる更新点数の見直し

- ・呼吸療法専門医の更新については、かつては5年間で本会年次学術集会に2回以上の出席という比較的達成が容易な水準であったが、『呼吸療法専門医テキスト』や筆記試験の充実化と並行して更新要件も再考すべきという意見があり、実際に「更新点数4点以上の取得」という要件が追加された経緯がある。

- ・それをふまえ、本制度の目的や学会全体の方向性などを総合的に考慮し、専門医制度施行細則 第 15 条 (3) を見直した。

5) 2025 年度の活動計画

- 《第 1 回専門医委員会》 6 月：研修施設書類審査、テキスト改訂確認
- 《呼吸療法専門医更新講習》 8 月：第 46 回学術集会（大阪）2 セッション（予定）
- 《第 2 回専門医委員会》 10 月：呼吸療法専門医書類審査、試験確認
- 《呼吸療法専門医筆記試験》 12 月 6 日(土)11:30～13:00 新大阪
- 《第 3 回専門医委員会》 12 月：試験合否判定、次年度テキスト改訂・問題作成計画

9. ECMO プロジェクト委員会（委員長 清水敬樹／担当理事 小倉崇以）

1) 委員会開催

- ・全国のポストコロナにおける発生状況、ECMO 稼働の現状を適宜 Web 会議で共有した。今後は、積極的に委員会を開催する予定。
- ・日本呼吸療法医学会での委員会企画に関する相談

2) ECMO プロジェクト

- ・日本救急医学会の ECMO プロジェクト、日本集中治療医学会の ECMO プロジェクトとの合同委員会企画等を各種学術集会で適宜開催。

3) 他学会との連携

- ①日本集中治療医学会 ECMO プロジェクト委員会、日本救急医学会 ECMO ネットワーク特別委員会、当委員会の計 3 委員会で連携を取り、日本の ECMO 体制向上のために役割分担して協働していく。

日本呼吸療法医学会 教育、レジストリー

日本集中治療医学会 医療保険、コスト改訂、病院間搬送

日本救急医学会 病院間搬送

従来、本会で施行していた教育、レジストリーなども今後は日本心肺補助学会などに移行する可能性が高い（まだ理事会や代表理事の承認は得ておらず、あくまでも現場での状況から）。実際に、2024 年には日本 ECMO net と厚生労働省による ECMO 講習会が開催され、2025 年も同様のシステムでの入札が開始されている。そのため、本会における ECMO プロジェクトの果たすべき方向性を協議する必要がある。

- ②ELSO や Euro ELSO、Asia-Pacific ELSO などの支部とも連携を図り、世界の潮流を意識しながらも我が国の存在感も示していく。

4) インフルエンザ重症例の全国調査

- ・ECMO の症例登録で使ってきた CRISIS を改良した new CRISIS を活用し、4 学会合同で行うことが検討された（日本救急医学会、日本集中治療医学会、日本呼吸療法医学会＋小児関連学会）。その結果、本会ならびに日本心肺補助学会の会員を対

象に標記の調査を実施し、ホームページに調査結果を公開することとなった。本件は ECMO プロジェクト委員会と理事長とで対応した。

10. 利益相反委員会（委員長 島田二郎／担当理事 清水敬樹）

- 1) 役員、利益相反委員、セミナー委員、編集委員等の COI の内容確認
- 2) 日本医学会 COI 管理ガイドラインを継続して注視

11. 社会保険委員会（委員長 志馬伸朗／担当理事 平井豊博）

- 1) 内保連の加盟状況
 - ・加盟認定；2018 年度より加盟
 - ・代表委員；近藤康博委員、志馬伸朗理事、平井豊博理事の 3 名を登録
 - ・診療領域別委員会（以下 4 委員会）
 - 01. 検査関連 03. リハビリテーション関連 10. 呼吸器関連 20. 在宅医療関連
- 2) 令和 8 年度診療報酬改定提案（2025 年 5 月最終提案）

【主提案】

「電気インピーダンス・トモグラフィ（EIT）」（大下慎一郎 先生）

- ・ARDS 診療ガイドライン 2026 作成委員会からの提案案件。日本集中治療医学会との 2 学会で共同提案を行う。

【共同提案】

「CPAP 使用規定の改正、AHI 15 以上、簡易モニター 30 以上」

「CPAP 電話指導に対する加算」

- ・日本呼吸器学会からの打診を受け、上記 2 案を共同提案。

「人工呼吸器装着前意思決定支援料」

- ・日本内科学会からの打診を受け、上記案を共同提案。

「早期離床・リハビリテーション加算」

- ・日本集中治療医学会からの打診を受け、上記案を共同提案。

12. 倫理委員会（委員長 則末泰博／担当理事 志馬伸朗・松本幸枝）

- 1) 学術集会企画：日本集中治療医学会との合同シンポジウムを開催する。
 - 4 学会合同終末期ガイドラインを呼吸器領域でどう活用するか？
 - 「4 学会終末期ガイドラインの作成過程と内容の概略」（仮）
伊藤 香（帝京大学医学部附属病院、集中治療医学会より）
 - 「本ガイドラインで救急・集中治療領域のプラクティスはどうか？」（仮）
渥美 生弘（聖隷浜松病院救命救急センター）
 - 「本ガイドラインをナースの立場からどのように活かすか？」（仮）
辻本真由美（横浜市立大学附属市民総合医療センター高度救命救急センター）

「呼吸療法医学会としての今後の活動の可能性」（仮）

則末 泰博（東京ベイ・浦安市川医療センター、呼吸療法医学会より）

13. 学術研究推進委員会 （委員長 吉田健史／担当理事 倉橋清泰）

1) 学会承認研究

- ・「集中治療と医療の質指標と VAE（略称）」

統計解析を TXP メディカルに委託し解析。複数の論文が輩出されることを目標。

- ・トロント大学「A survey of when to intubate in hypoxemic respiratory failure」

アンケートを、会員を対象にオンラインで実施（2023 年 10 月）。

侵襲的人工呼吸管理開始の決定に関わる医療従事者を対象。

挿管・人工呼吸管理開始の決定にかかわる種々の因子を定量評価する目的。

- ・「ARDS 患者に対する ECMO 管理中の至適 PEEP の検討」

大下慎一郎先生（広島大学大学院救急集中治療医学）のもと RCT として進行中。

- ・「小児心臓血管外科術後患者における高流量式鼻カヌラの効果」

吉田健史委員長（大阪大学大学院麻酔集中治療医学）のもと進行中。

- ・「COVID-19 患者における急性呼吸不全に対する非侵襲的呼吸管理デバイス（HFNCOT、CPAP、NPPV）の有効性と安全性の検討」

近藤康博先生（公立陶生病院）のもと進行中。

- ・「気管支喘息、COPD 増悪時の吸入療法の実態調査」

奥田みゆき先生（大阪南医療センター呼吸器・アレルギー内科）のもと進行中。

日本集中治療医学会・日本呼吸器学会・本会の会員を対象にアンケートを実施。

（2023 年 10 月～11 月 20 日）。全国的にデータを収集し吸入療法の実態を把握。

英文での結果報告を作成中。転載許可が得られれば本会機関誌でも発表予定。

- ・「Lung stress mapping を用いた ARDS（急性呼吸促迫症候群）患者における

人工呼吸器関連肺傷害リスクの解明」多施設前向き観察研究

研究代表者：大阪大学大学院医学系研究科 麻酔集中治療医学教室 吉田健史

2024 年 7 月本会承認研究として認定、13 施設からの連絡があり順調に進行中

2) 学術研究の支援金

- ・これまで本委員会では学術研究の推進を目的とし、各種の臨床研究を学会として承認し大阪大学のデータ集積管理システム“REDCap”を利用できるよう取り計らってきた。一方、海外雑誌への投稿にともなう英文校正や投稿料などの費用支援については具体的に議論されていなかった。

- ・上記に加え、学術研究を支援する資金援助について「公募制、1 口 10 万円、年間予算 100 万円程度」とする案を理事会に上申し、学会の活動として相応しいこと、会員メリットとして入会の動機となること、公募制により公平性が担保されることなどから承認された。支援金の振り分けについてはメディカルスタッフにも支援が行

き渡るよう審査の際に配慮する。

14. 広報委員会（委員長 高木俊介／担当理事 吉田健史）

1) 2024 年度新設

- ・ 広報委員会の新設にともない、本会の広報上の課題としてホームページのリニューアル・ロゴ制作・タグラインコピーの作成に着手した。

2) ホームページリニューアル

- ・ ホームページは学会の顔でありそのデザインは信頼性や安心感を高め、タグラインボディコピーは入会の動機に直結することが期待できる。学会として会員増に向けた施策に予算を割くことが重要であり、300～400 万円の予算規模で制作を進めることが承認された。2025 年 8 月の第 47 回学術集会にてお披露目できるよう広報委員会で制作を進めている。

※. 学術集会あり方検討委員会（竹内理事長）

- ・ 本委員会については、近年特段の業務が生じていないことを考慮し、将来計画・財務委員会に業務を引き継ぎ、解散することが理事会で承認された。

■Ad hoc 委員会

1. 用語集改訂委員会

1) 設置の経緯

- ・ 2009 年に作成した日本呼吸療法医学会用語集は、2016 年の改訂第 2 版発行以後、改訂の時期を迎えていた。Ad hoc 委員会として 2024 年度に委員会を設置し改訂第 3 版を制作した。委員には以下の会員が就任した。

委員長：大塚将秀（Dr）

委 員：梶原吉春（CE）、木村雅彦（PT）、小山有紀子（Dr）

中山龍一（Dr）、濱本実也（Ns）、山口嘉一（Dr）、横山俊樹（Dr）

2) 改訂第 3 版の完成ならびに公開

- ・ 2025 年 3 月にパブリックコメントを募集し、理事会承認を経て、2025 年 5 月 20 日付で改訂第 3 版をホームページ上に公開した。
- ・ 第 3 版については PDF 版に加えて、Web 上での用語検索システムを導入する。

2. BMI over 35（肥満患者）の呼吸管理

1) 設置の経緯

- ・ 清水理事より肥満患者の管理における診療報酬改定を目的とし、当該領域の現状やデータ収集などを行う委員会の新設の提案があり承認された。
- ・ 診療報酬改定を担当する社会保険委員会と連携し、Ad hoc 委員会として清水理事が

委員長となり、人選を行った。

■3 学会合同

ARDS 診療ガイドライン 2026 作成統括委員会（担当理事 竹内宗之）

1) 組織：日本集中治療医学会・日本呼吸器学会・日本呼吸療法医学会の 3 学会合同

委員長 大下慎一郎・則末泰博

副委員長 岡森 慧・安田英人・竹内宗之

委員_班長 中島幹男・阿南圭祐・片岡 惇・成田知大・三浦慎也

サポート班 真弓卓也（リーダー）岸原悠貴・岡田遥平・山本良平・林健一郎（サブ）

オブザーバー 橋本 悟

担当理事 田坂定智（オブザーバー）・竹内宗之

2) 委員会開催（日本集中治療医学会事務局会議室＋Web 会議）

・2024 年度より継続的に 2 カ月に一度の頻度で委員会を開催。

3) 活動計画

・CQ のシステマティック・レビューとメタ解析（～2025/5 月）

・パブリックコメント募集（～2025/7 月）

・ガイドライン本文（日本語・英語）執筆（～2026/2 月）

・英語版作成（～2026/4 月）

・2025 年度の活動予算として論文投稿費、作業外部委託費、会議費、オンライン資料保管費、英文校正費、執筆料、謝金などで 380 万円程度の費用を計上。

Ⅲ. 審議事項

第 1 号議案 社会保険委員会の委員会人事・委員会規則の件（志馬委員長）

・理事会・委員会規則第 11 条（1）では委員会委員の任期が定められているが、同時に同条文で「各委員会規則に別途規定がある場合を除く」とある。社会保険委員会は、診療報酬に関して意見を述べる非常に重要な委員会であり、継続性を必要とすることから、これまで本委員会規則にて別途以下のとおり規定を定めてきた。

・一方、組織・任期などにかかる記載が不十分であったため、このたび社会保険委員会規則第 2 条に対し以下の修正案が上申され、承認された。

=====

社会保険委員会 規則

第 1 条 目的

本会に関連する保険医療関連諸事項を調査・審議し、診療報酬改定に向け必要な案件を絞り込み提案書を作成、関係諸学会との連携を取りつつ、しかるべき手続きにて提出する。同時に本会に関連する現状の医療行為について、診療報酬体系の適正状況と整合性を確認する。

第 2条 組織

- (1) 委員長は代議員の中から理事長が委嘱する。ただし、任期途中で代議員でなくなった場合は、理事会の議を経て任期満了まで務めることができる。
- (2) 委員長1人、副委員長1人、委員数名とする。委員は委員長が選任し、副委員長は委員の中から委員長が指名する。
- (3) 委員長を含めた上記委員の任期は3年とするが、再任は妨げない。ただし連続3期を超えないものとする。
- (4) 原則として、少なくとも3年ごとに委員の約3分の1が交代するものとする。
- ~~(4) 委員長は必要に応じて委員会協力員を任命することができる。その場合、職種が偏らないように配慮する。 “協力員” の規定削除~~
- (5) 新任委員は公募（自薦および他薦）とし、委員会で検討した後に理事会で決定する。
- (6) 新任・再任の委員は就任の年の4月1日に満64歳以下とする。
- (5→7) 委員会事務局は、本会事務局におく。

第 3条 業務

- (1) 広く本会会員から診療報酬に関する要望を集積・整理し、上記委員会にてその必要性・妥当性を審議する。
- (2) 委員会で決定した本会からの提案案件について提案書を作成し、社会保険連合会および関係諸学会との連携を保ちながら、厚生労働省に提出する。
なお、提案書作成の業務の一部は第3者（調査会社）に委託することができる。
- (3) 上記保険連合会あるいは厚生労働省からのヒアリングに対応する。
- (4) 保険制度全般に関する知識と理解に関し本会会員への普及に貢献する。

第 4条 会計

委員会活動に関する収支決済を報告する。

第 5条 運営

- (1) 委員長は随時委員会を招集することができる。
- (2) 委員会は委員の過半数の出席をもって成立する。
- (3) 委員会の議事は出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときには委員長の決するところによる。

施行 2015年 5月 1日

第 2号議案 2025 年度論文賞の件（竹内理事長）

- ・前年に発行された機関誌第 41 巻第 1 号・第 2 号における採択論文 10 編のなかで、編集委員会で優秀論文賞 1 編、奨励論文賞 2 編の選考を行い、選考結果が上申された。規定にもとづき審議が行われた過程も報告され、承認された。今後は、審議における点数についても開示することとした。

・優秀論文賞

原著 食道内圧バルーン空気量の簡便な較正法（呼吸同調持続注入法：CAISR 法）
の開発
宇佐見 直・他（東京ベイ浦安市川医療センター 臨床工学室）
臨床工学技士 41-2 号

・奨励論文賞

呼吸管理の工夫 単回使用吸入麻酔薬気化器を使用した術後短期人工呼吸管理に関
する費用分析
下村 太郎・他（大阪赤十字病院 医療技術部 臨床工学技術課）
臨床工学技士 41-1 号
呼吸管理の工夫 令和 6 年能登半島地震における在宅酸素療法・在宅人工呼吸療法・
在宅持続陽圧呼吸療法を扱う事業者の災害対応
濱坂 秀一（医王病院 呼吸器障害・感染症治療研究室）
臨床工学技士 41-2 号

第 3 号議案 2024 年度事業報告および決算承認の件（佐藤理事、竹田・藤野監事）

＜収 入＞

- ・年会費：前年度より 27.9 万円の減となった。年度内の納入率は約 80.8%、未収金は 251.6 万円。
- ・事業費：年 3 回のオンラインセミナー収入は前年度より 81.1 万円の減となった。
- ・広告費：ユーザーレポート掲載社は年間で計 3 社となった。
- ・機関誌販売：別刷販売が 2 編あり前年度より 47.2 万円の増となった。
- ・当期収入は 98,569,093 円、学術集会関連を除くと 30,777,819 円となった。

＜支 出＞

- ・機関誌等発行費：機関誌の頁数は前年より 43 頁増となった。
- ・事業費：セミナーの経費は前年度より 32.8 万円の減となった。
- ・委員会費：『呼吸療法』デザイン費 342,300 円、ARDS 2026 の 3 学会経費 864,973 円を計上した。
- ・当期支出合計は 83,264,755 円、学術集会関連を除くと 21,014,745 円となった。
- ・次年度繰越利益は 146,291,915 円となった。

＜収支合計＞

- ・学術集会を除く単年度収支は 9,763,074 円の黒字となった。

＜監査報告＞

- ・竹田監事・藤野監事から、会計監査を行い、適切に運用されていることを確認した旨の報告があった。
- ・以上、2024 年度決算について、承認された。

第 4 号議案 2025 年度事業計画および収支予算の件（佐藤理事）

＜収 入＞

- ・会費収入：2025 年 5 月時点の会員数にもとづき計上した。
- ・事業収入：医学会セミナーを年 1 回（800 名）、医師向けセミナーを年 2 回（410 名）として、参加費収入を計上した。
- ・広告収入：1 号のユーザーレポート掲載料は実費を、2 号は見込額を計上した。
- ・書 籍 等：『ECMO・PCPS バイブル』『小児在宅第 2 版』の印税見込額を計上した。
- ・学術集会：会長試算による見込み額を計上した。
- ・以上、当期収入予算は 118,822,100 円、学術集会関連を除くと 28,987,100 円となった。

＜支 出＞

- ・機 関 誌：各号の発行諸経費にもとづき計上した。
- ・事 業 費：医学会セミナーを年 1 回、医師向けセミナーを年 2 回として、前年実績にもとづき計上した。
- ・委員会費：各委員会の前年実績などにもとづき計上した。学術推進年間予算として 100 万円、ホームページ制作費として 330 万円、ARDS ガイドライン制作費として 387 万円を計上した。
- ・学術集会：会長試算による見込み額を計上した。
- ・専門医等：『呼吸療法専門医テキスト』編集費と試験会場費を計上した。
- ・理事会費：会員管理システム制作費として 300 万円を計上した。
- ・社員総会費：本年度からオンライン総会に移行する。
- ・そ の 他：交際費・事務局費・通信費・租税公課・支払手数料・事務用消耗品費・法人税等を前年度にもとづき計上した。
- ・以上、当期支出予算は 111,681,400 円、学術集会を除くと 30,425,900 円となった。

＜収支合計＞

- ・単年度の収支は約 714 万円の黒字予算となることが報告された。
- ・以上、2025 年度予算について、承認された。

第 5 号議案 第 46 回学術集会参加費の件（竹内理事長・吉田会長）

	第 46 回	第 47 回	
医師（会員）	15,000 円	15,000 円	（不課税）
医師（非会員）・一般	16,500 円	16,500 円	（課税）
メディカルスタッフ（会員）	12,000 円	12,000 円	（不課税）
メディカルスタッフ（非会員）	13,200 円	13,200 円	（課税）
研修医	11,000 円	11,000 円	（課税）
学生（大学院生は除く）	3,300 円	3,300 円	（課税）

- ・上記の参加費について、承認された。

第 6 号議案 第 50 回（2028 年）学術集会会長候補の件（竹内理事長）

- ・第 50 回学術集会会長に内田寛治理事が推薦され、承認された。
- ・定款施行細則第 4 章にある学術集会会長選出の条文に則り、活動実績や貢献度などから理事会で候補者を指名し、定時社員総会にて承認を得る手続きを進める。

第 7 号議案 自発呼吸アセスメント指針改訂ワーキンググループの件（佐藤理事）

- ・2019 年 10 月に「自発呼吸アセスメント指針」を公開し、成人における自発呼吸アセスメントにおける一定の知見が纏められた。同指針ではアセスメントを映像音声媒体で示すことや小児の自発呼吸アセスメントを含めることなどが課題となっている。これらの指針改訂作業を行うことを目的に「自発呼吸アセスメント改定ワーキンググループ」の立ち上げについて上申があり、承認された。担当理事については継続審議とする。

第 8 号議案 用語集改訂委員会について（大塚委員長）

1) 検索システムの修正について

- ・前回の理事会で用語検索システム制作費が承認され学会ホームページで公開される運びとなった。本ページでは「英文検索」「和文検索」ができる仕様となっているが、さらに略語からの検索もできるシステムも追加で構築する見積もりが提示され、追加構築について承認された。

2) 委員会の解散について

- ・Ad hoc 委員会として 2024 年度に委員会を設置し、改訂第 3 版を 2025 年 5 月 20 日に発行することができた。ついては、他の委員会委員の任期である社員総会の日にあわせ、6 月 14 日での本委員会の解散を、定款第 43 条にある委員会設置時の手続き同様審議を行い、承認された。
- ・第 3 版の公開から解散までは約 1 カ月があり、その間に会員等から意見があれば委員会として対応し、解散後に対応が必要な案件が生じた場合は、1 年間は担当した大塚理事が、その先は事務局担当理事が対応する。